

9/20
7/24

「この日絶対忘れぬ」

列島各地で老若男女抗議

安全保障関連法が成立した19日未明、国会前に集まった市民らは「民意の無視だ」「憲法守れ」と抗議の声を上げた。同日朝や午後にも多くの人が周辺に集結し「戦争法制絶対廃止」と訴えた。

列島各地でもデモや集会在あり、高校生や大学生のほか、小学生の孫を連れた高齢層など幅広い世代が参加。「この日を絶対忘れない」など声をそろえた。連休中には各地でさまざまな抗議行動が予定されており、市民らの反対の意思表示が続きそうだ。

19日午前2時すぎの国会周辺で、参加者はスマートフォンで国会中継を見守り、成立が分かるまで座り込む人の姿もあった。しかし、直後に「採決撤回」「選挙に行こう」とシヨプレヒコールを繰り返した。朝になって再び市民が国会



安全保障関連法の反対を訴え、京都市をデモ行進する高校生ら=19日午後

前で「憲法違反、断固糾弾」と連呼。午後も、集まった人たちが「法律は使わせない」などと訴えた。個人で加わっ

た人も多く、複数の参加者は「自然発生的に集まった」と話した。京都市の繁華街では、関西

の高校生を中心にしたグループが企画したデモがあり、参加者が「高校生もむかついてんだぜ」とコールを上げた。ツイッターを見て参加した京都府京田辺市の高校2年の男子生徒17人は「自分たちにも関係することだと自覚を持つべきだ」と話した。那覇市では学生グループ「SEALDs RYUKYU（シールズ琉球）」が集会を開き、沖縄県読谷村の保育士与那覇沙姫さん(30)は「私たちは絶対に諦めない」と氣勢を上げた。広島市であった抗議行動では、生後3カ月で被爆した同市佐伯区の無職川本正晴さん(70)が「二度と私たちのような被爆者をつくりたくない」と話した。